

令和 8 年度 第 5 回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和 8 年 8 月 17 日（月） 9 時 30 分～15 時 00 分
- 2 場 所 青森市役所 駅前庁舎 4 階 会議室
- 3 出 席 者 子ども会議委員 6 名、子どもサポーター 1 名、ファシリテーター 1 名、事務局 2 名
- 4 活動内容 グループ活動

5 開催概要

前回までに決めたスケジュールをもとに、グループごとの調査研究活動が始まりました。

また、グループ名についても前回の会議から引き続き話し合い、今回の会議で決定しました。こども・若者グループでは、子どもの目線で、楽しくて住みやすいまちを目指して活動することから、「Enjoy(楽しい)」という言葉を使いたいという意見が出ました。さまざまな英単語を調べながら検討した結果、「young people(若い人たち)」を組み合わせ、さらに「!」や「☆」を加えて、「Enjoy! young people☆」に決定しました。経済グループでは、仕事も暮らしも充実したまちづくりを目指して活動することから、「発展! 青森市」という案や、「economy(経済)」、「social(社会の)」などの英単語を使ってはどうかという意見が出ました。その中で、青森市を表す「Aomori」と「economy(経済)」を組み合わせた「A-conomy(Aomori Economy)」に決定しました。

グループ活動

<Enjoy! young people☆>

午前：若者の不安や悩みアンケート

7 月 5 日（日）に開催された「子どもの祭典」のブース出展の際に実施したアンケートについて、集計結果を共有しました。アンケート結果を見て気が付いたことや、なぜ不安や悩みがあるのか、20 年後も住み続けたいと思える青森市にするためにはどのようなことが必要か、そのために子ども会議にできることは何かなどについて、話し合いながらワークシートに考えをまとめました。「青森市が住みやすいと回答している人が結構多かった！」

という気づきがあったほか、「子ども会議で意見を発表して、貢献したい！」という声も聞かれました。

また、A-conomy グループが行う移住者へのインタビューについて、参加人数が少なかったため、一緒に活動を行いました。移住者からお話を伺う中で、子どもの目線から考える「楽しくて住みやすいまち」につながるヒントも見つかるかもしれません。



移住者(地域おこし協力隊や移住コーディネーター)へのインタビュー



まず、インタビューの仕方について7月28日(火)の第4回子ども会議で行った東奥日報社の出前授業で教わった内容を振り返りました。「取材の進め方、話し方、態度についてのポイント」などを改めて復習しました。その後、前回までの会議で作成した調査計画書を確認し、今回のインタビューの目的をみんなで共有しました。続いて、東奥日報社の出前授業で教わった「取材前に取材先について調べる」ということを実践しました。インタビューをする相手について、インターネットや紙の資料を使って調べ、どのような活動をしているのかなどを事前に確認しました。準備が整ったところで、インタビューをする担当を決めました。担当決めについては、委員からの提案で、ルーレットを使って決定しました。

いよいよ、インタビュー本番です。地域おこし協力隊の今井風花さん、黒田理江さん、移住コーディネーターの角間拓矢さん、磯野咲さん、近恵美子さんにお越しいただきました。お互いに自己紹介をした後、5グループに分かれてインタビューを行いました。事前に考えていた質問に加え、インタビューを進める中で「もっと聞いてみたい」と思ったことについても質問しました。緊張している子どもたちに優しく声をかけていただき、和やかな雰囲気の中でインタビューを行うことができました。約30分かけて全グループのインタビューが終了しました。終了後は、インタビューで心に残った話や印象に残ったことを委員が発表しました。最後に感謝の気持ちを込めて、子ども会議で作成した「けんりはかせ」が描かれた缶バッジをプレゼントしました。記念撮影を行い、子ども会議委員の代表者が挨拶をして、地域おこし協力隊や移住コーディネーターとの活動を終了しました。

最後に、子ども会議フォーラムに向けて、今回の活動を今後の話し合いにつなげるため、振り返りを行いました。インタビューで心に残ったことや、話を聞いて感じた課題、青森市をよりよくするための改善点などについて、それぞれの考えを書き留めました。「とても緊張した」と話しながらも、事前に準備した質問をもとに一生懸命インタビューを行うことができました。

